

# 誤解はどこから生まれるか

——留学生と日本人学生のコミュニケーション・  
ブレイクダウンへの対処をめぐる——

徳井厚子

## I はじめに

コミュニケーションとは、ハウエルのことばをかりれば、「自分と相手の間で協力してつくりあげてゆくジョイント・ベンチャー（合弁）」である。私たちの現実の会話は、観察すればわかるように、台本もなければ、リハーサルもない。すべて「その場勝負」である。しかし、時として、私たちは、コミュニケーション上のトラブルのために相手を誤解してしまったり、また、傷つけてしまったりする。これは、母国語の話者同志の会話の場合もあるが、異なる国同志の会話の場合も多い。特に後者の場合、それぞれの持つコミュニケーション・スタイルの違いから誤解へと発展するケースは多いといえる。留学生と接していると、よく「日本人と友達になりたいが、うまくコミュニケーションできない」「よく誤解されてしまう」ということをきく。また、日本人側からも同じようなことをきく。このような誤解の原因は何だろうか。実際の会話では、その誤解を取り除くためにどのような方法が用いられているのだろうか。よりよいコミュニケーションとは何だろうか。

本稿では、留学生と日本人の合同クラス「日本事情ゼミナール」での討論の記録をもとに、留学生、日本人がコミュニケーション・ブレイクダウンに直面した際に、どのように修正を試みようとしているかを観察し、よりよいコミュニケーションとは何かについて考えていきたい。

## II コミュニケーション・ブレイクダウンとは何か

### 1 コミュニケーション・ブレイクダウンの定義と分類—先行研究から—

仁科他(1994)では、コミュニケーション・ブレイクダウンの定義を、「それまで垂直な方向（vertical）に流れていたコミュニケーションが停滞し、コミュニケーションの流れが水平な方向（horizontal）に移る状態」とし、次のように明示的、非明示的という分類で考察を進めている。

#### \* 明示的なコミュニケーション・ブレイクダウン

対話者の双方がブレイクダウンの発生に気づき会話の修得を行う場合と話し手が聞き手のどちらか一方が気づき、修得をリードする場合がある。

#### \* 非明示的なコミュニケーション・ブレイクダウン

双方が気付かずブレイクダウンが修得されないまま、あるいは対話者のどちらか一方が修得を試みたものの、それが成功しないままコミュニケーションがすすめられていく。

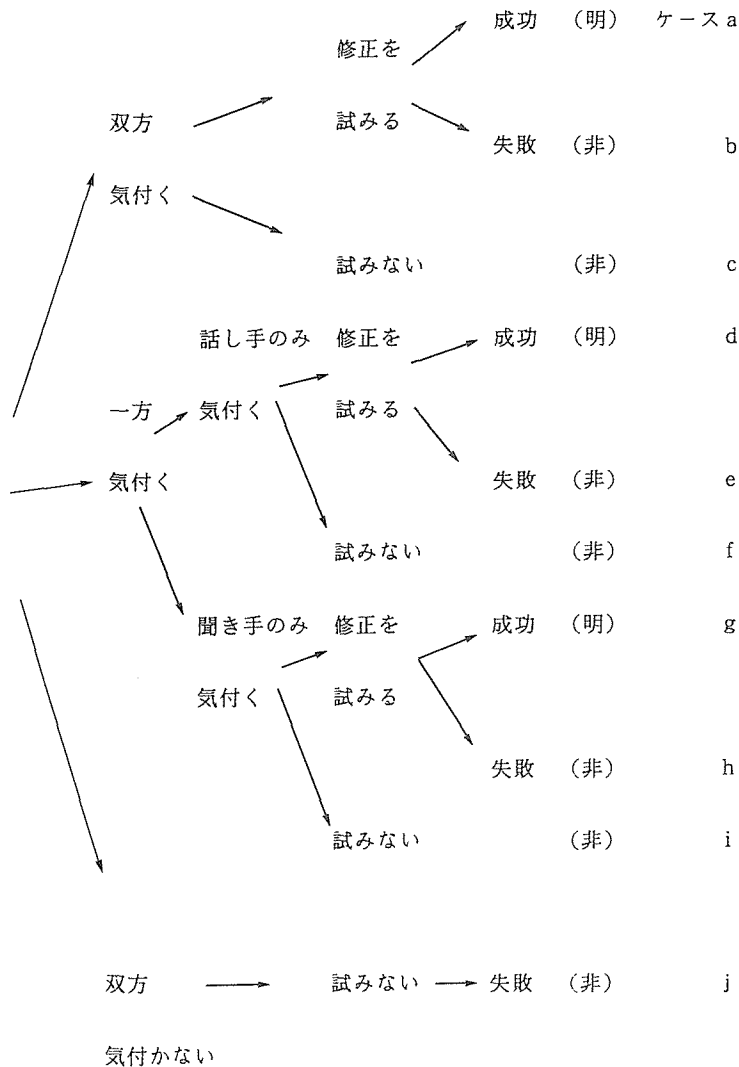
また、「日本語百科大事典」では、「コミュニケーションの結果としての誤解」を、次のように表層的誤解、深層的誤解に分けている。

\* 表層的誤解

- 1) 聞き（読み）間違い
- 2) 同音異義語
- 3) 文脈の誤り

(次ページへ続く)

図1 ブレークダウンの分類



\* (明)は明示的ブレークダウン(仁科他の定義による)、(非)は非明示的ブレークダウン(同)の略である。

#### \* 深層的誤解

- 1) 皮肉や逆説が通じない。
- 2) 誘導的質問、助け船の意図の意味をとり違える。
- 3) 送り手の発言を文義どおりに解さず、裏に別の意味が潜んでいる、と誤解する。

本稿では、仁科他による「コミュニケーション・ブレイクダウン」の定義に基づき、考察をすすめる。

### 2 「修復の過程」を考慮した分類案

仁科他（前出）では、ブレイクダウンの種類を、明示的、非明示的の二種類に分けた。これは、ブレイクダウンを単に内容で分類したものでなく、修復をしたか、しなかったかという点に焦点が置かれている点で意義があると思われる。しかし、「修復されたか、しなかったか」という結果に重点が置かれており、「修復の過程」に重点を置いた場合にはこの分類をさらに細かくする必要があるのであると思われる。実際の会話では、ブレイクダウンに気付いても修復を行わない場合もあれば、ブレイクダウンに気づき、修復をおこなったが、成功しなかった場合もある。また、ブレイクダウンに気付かず、修復を行わなかった場合もある。仁科他では、これらのケースはいずれも結果的に修復がおこなわれたものではないため、「非明示的ブレイクダウン」に分類しているが、これらは「修復の過程」という観点から考えた場合、別のものとして分類できるのではないかと考えられるのである。

「修復の過程」という観点に重点をおいてブレイクダウンを分類する場合、次の点を考慮にいれる必要がある。

- 1 ブレイクダウンの発生に気付いたか、気付かなかったか
- 2 修復を試みたか、試みなかったか
- 3 修復に成功したか、しなかったか

本稿では、以上の点を考慮して、ブレイクダウンのプロセスを図1（前ページ）のように分類する。

本分類では、ブレイクダウンをa～jの10タイプに分類した。以下では、実際の授業の討論の中で、これらのケースが日本人学生と留学生にどのようにあらわれたか、事例を中心に検討していきたい。

## III 実際の授業にみるコミュニケーション・ブレイクダウンとその対扱

### —留学生、日本人学生の合同授業から—

#### 1 調査対象

本稿では、留学生、日本人学生の合同授業「日本事情ゼミナール」における討論の録音テープの記録をもとに、ブレイクダウンの事例を検討する。

「日本事情ゼミナール」は、留学生と日本人学生合同による、討論中心の授業である。学生数は約50名であり、（うち約半数は日本人学生である）次のように授業をすすめている。

- 1 日本人学生、留学生同数による合同チームを編成する
- 2 合同チームによる共同研究を行う

## 3 合同チームの発表をおこなう

## 4 全体討論をおこなう

尚、実際の授業では3, 4をおこなっている。本稿でとりあげる討論の事例は、4の全体討論(6時間分)を録音したものである。

また、受講している留学生は、いずれも学部一年生であり、日本語力は中級～上級である。国籍は以下のとおりである。

マレーシア、中国、台湾、韓国、香港、インドネシア、ラオス、タイ、スリランカ、マカオ、ベトナム

## 2 コミュニケーション・ブレイクダウンとその対処の事例の検討

本節では、表1のブレイクダウンの分類をもとに、実際の討論にみられた事例を、留学生、日本人学生のそれぞれのケースに分けて検討し、留学生と日本人学生とでは、ブレイクダウンへの対処の特徴がどのように異なっているか、についてみていきたい。

尚、Fは留学生、Jは日本人学生をあらわす。

## 2-1 留学生にみられるブレイクダウンへの対処

## a ブレイクダウンに双方(話し手、聞き手とも)が気づき、修正を試み成功した場合

このケースは、話し手、聞き手共にブレイクダウンに気付いている。話し手である留学生が、自分自身のブレイクダウンに気づき、例えば、「何といたったけ」など、「修正を試みている」表現や、聞き返しなど、「戸惑い」をあらわす表現を使うことによって、聞き手に「修正を試みている」ことを伝え、聞き手の助けによって修正がおこなわれた場合も含まれる。実際は「何といたったけ」という表現を知らず、「何と言う」「何か」といった表現が用いられる場合もあった。具体的には、②のように同国人同志による修正もよくみられた。これは「何をいおうとしているのか」が同じ母国話者同志でよく理解できるためであろう。

- ① F:みんな人間だから、ただ先生と生徒と生徒の関係じゃなくて、友達のようなひとりの男になるか。先生は、何と言えよいいかなあ…… J:先生と生徒の関係だけじゃ、つめたいよね。こう、もっと親しみのある関係って大切ってそういいたいんだよね。F:そうそう。
- ② F1:そして、マレーシアは熱国だから、ヤシ? 皆ヤシを知っている。F2:ヤシの木。

## b 双方が気づき、修正を試み失敗した場合

このケースは、話し手も聞き手もブレイクダウンに気づき、修正を試みるが、留学生の日本語の表現力が不足しているため、意図している「語」が何をあらわしているのか、他の聞き手に通じず、修正に失敗したケースである。このケースは、相手に「修正を試みようとする」意図は伝わったが、どう修正したらよいかわからずに失敗したケースが多い(④)。あるいは、相手に助けてもらったが、正しい修正が行われなかった場合も含まれる(③)。

- ③ F1:これをみたら皆が…… F2:かわいいと思っています。F1:かわいいではないです。

- ④ でも、日本でも、例えば60年、70年の、あの時の、資本主義の、社会主義の、何という……(沈黙)

### c 双方が気づき、修正を試みなかった場合

このケースは、話し手も聞き手のブレイクダウンに気付いているが、修正を試みなかったケースである。例えば、留学生の日本語の発音の不明瞭さや、スピードの遅さ、文法の誤り、不適切な表現など、「気付いて」はいるが、「黙認」しているケースである。これらは、ディスカッションの内容には直接影響を及ぼすものではない要素の場合が多い。

⑤F：君は、いま、しゃべれないということだよ。そういうことだよ。

⑥F：マレーシアでは、ぼくにとって男女差別はあまりみえないでしょ。

### d 話し手のみ気づき、修正を試み、成功した場合

このケースは、留学生が話し手となっている際、自分自身の使っている表現や文法上の誤りや、自分自身のブレイクダウンに気づき、修正を行った場合である。自分自身で言い直すなどの方法で修正する場合がふくまれる。

⑦F：(料理は) ふだんはお母さんが、母がつくるんだけど……

⑧F：そして中身はココナツの汁？ ココナツのミルクをつくれる。

⑨F：あの、何か、全体的な意見が、意見を聞きたい。

### e 話し手のみ気づき、修正を試みるが、失敗した場合

このケースは、留学生が話し手となっている際自分自身のブレイクダウンに気づき、修正を試みようとするが、うまく修正できなかったケースや、修正のストラテジーをうまく使うことができず、聞き手に「修正を試みている」ということが伝わらず、失敗したケースである。すなわち、「どう言ったらいいかわからないんですけど」「何とといったっけ」「こんな言い方でいいんでしたっけ」「別のいいかたありましたっけ」といった日本語のメタ言語的な表現を習得していないために「修正を試みようとしている」意図が聞き手に伝わらず、修正を助けてもらうこともできなかったケースである。

⑩F：アメリカやイギリスなどのタバコの産業がハー・ハイ・ファン？……(笑い)とかだんだんと流しているんですね。

⑪F：なんか、それは見た目が、一番、あの、何か、おぼ、おぼ……

### f 話し手のみ気づくが、修正を試みなかった場合

このケースは、eと共通点が多いが、eと異なる点は、eが修正を試みようとしたのに対し、fでは修正を試みようとしなかった点である。すなわちブレイクダウンに気付いているが、あきらめてしまっているケースである。次の例は、説明のための語彙力が不足していたため修正を試みなかったケースといえる。

⑫F：たとえば、果物のなかで、時期がある果物とない果物があるの。……それを説明するのはちょっとむずかしいと思う。

### g 聞き手のみ気づき、修正を試み、成功した場合(留学生が聞き手の場合)

これは話し手が日本人学生(または留学生)の場合、話し手はブレイクダウンに気付かず、聞き手(留学生)によって修正が試みられたケースである。これは、聞き手が話し手に質問をしたり、聞き返しをすることによって話し手にブレイクダウンを気付かせ、修正を促した場合などである。

この場合、「わかりません」「もう一度いってください」等と言う表現で、相手に質問し修正を促しているケースがみられた。たとえば、日本人の曖昧な表現に対し、このように発言することによって「言い直し」を要求するケースである。しかし、このように相手に修正してもらうための要求の表現に乏しいため、hのように失敗してしまうケースもみられる。

⑬ J：就職するにあたって資格が必要なところへ行きたい方は？ F1：すみません、もっと声、大きく。F2：ことばの意味の問題じゃなくて、質問の……どうやって答えたらいいか、わからないんですよ。J：自分の国にもどられる方は、就職するにあたっては資格が必要なところもありますよね。コンピューターとか……そういうのがありますが、就職する時にはそういう企業にいきたいかちょっと話していただきたいんですが……

⑭ J：日本の社会についてはどういう印象を…… F：日本の社会？

#### h 聞き手のみ気づき、修正を試みたが、失敗した場合（留学生が聞き手の場合）

これは、gのケースで留学生による修正が試みられたが、失敗したケースである。失敗の原因は、gでものべたとおり、相手に修正を要求する表現に乏しいことなどである。また、次のケースのように聞き手による修正の内容が不適格である場合も含まれる。（⑮）では、聞き手であるF2がF1のいいたいことを予測して修正したつもりが、間違っていたケースである。）

⑮ F1：これを見たら、皆…… F2：かわいいと思います。F1：かわいいではないです。

⑯ F：すみません、日本と違う…… J：はい？ F：なんか、指定された教科書とかそういう…… J：そういうようなことを決める機関がありましたとかいう…… F：違うわ。

#### i 聞き手のみ気づき、修正を試みなかった場合

これは、聞き手のみがブレイクダウンに気付いたが、相手に対して「もう少し簡潔におねがいします」や「もっと簡潔に言っていただけませんか」「具体的に言っていただきたいんですが」のような、ブレイクダウンを修正する表現を知らないため、修正がなされないままになってしまったものなどが含まれる。この場合、質問や聞き返しをしないため、聞き手は話の流れを理解できないうちに、話がすすんでしまう。また、聞き手が適当なタイミングをみはからず質問できなかったケースも含まれる。

⑰ J：早い人は、幼稚園から私立など、慶応とかそういうところへいたり、他の国では、私立の学校などで、そういうものがありましたか？（沈黙）

#### j 双方が気付かず、修正を試みなかった場合

これは、話し手、聞き手共にブレイクダウンに気付かずに進んでしまうケースである。これは「無意識なレベルでのブレイクダウン」ということができるだろう。

次の例は、留学生の話すスピードが遅いため、留学生が言い切らないうちに聞き手の日本人があいづちをうち、お互いにブレイクダウンに気付かずに話の内容を誤解していたケースである。

⑱ F：日本と違うのは、大学は7時半から、12時まで。J：夜？ F：違う、午前中。

J：いいねえ、へえ、うらやましい。F：朝7時30分から、12時まで。また、午後、1時から5時まで。J：また、午後もやるの？（笑い）

この場合、日本人は留学生が「大学は7時半から始まり、12時に終わる」といっていると理解していた。しかし、留学生は「午後5時までやる」といいたかったのである。

## 2-2 日本人学生のブレイクダウンへの対処

### a 双方が気づき、修正を試み、成功した場合

これは、語彙の難しさや、スピードの速さなど、比較的目的に見えやすいため、ブレイクダウンに気づきやすく、修復の容易なものが多くみられた。ここには聞き手による聞き返しや質問により、修正がおこなわれるものも含む。

⑱ F：文部省？ J：(黒板に書いて説明する。)

⑳ J：日本に来た時、日本の社会とか、こういうことについて、どういう印象を持ちましたか？ F：社会、というとか何か広く見えるんですけども、社会というとかあまりぱっと……

J：あの、たとえば、社会生活とか、そういうことですが。

### b 双方が気づき、修正を試みるが、失敗した場合

これは、aの方法で日本人学生が修正を試みたにもかかわらず、修正に失敗したケースである。日本人学生の方は、易しい語におきかえたつもりが、留学生にとってはむしろかかったり、わかりにくい語彙を板書しても、留学生の方は書かれた漢字が読めなかったり、スピードをおとしてゆっくり話しても、なお留学生には理解できなかったり、というケースである。この場合、留学生の方から聞き返しがある場合は修正が可能となる。(このケースはaのケースになる。)

㉑ J：授業の内容について、他の外国語の授業でもいいですから、ほかの国の人たちがどういうふうだったか知りたいんですけども。F：すみません、質問の意味がよくわからないんですけども。J：すみません、えっと、小、中、のころの授業の内容というか、日本で文部省というものが、教育のいろいろな事を決めているというのをご存じですか？

F：文部省？

### c 双方が気付くが、修正を試みなかった場合

留学生の場合のcのケースと同様

### d 話し手のみ気づき、修正を試み、成功した場合

これは、日本人学生が話し手となっている際、自分自身の日本語が原因でブレイクダウンがおこっているのに気づき、修正をおこなったケースである。「～ですよ」のような確認の表現が用いられている場合が多い。

㉒ J：とりあえず、日本人は、無関心なんです。……わかりますか？

㉓ J：日本では、最近つめこみ勉強ってことがよくいわれてるんですね。つめこみ勉強って意味、わかります？ だいたい感じ、わかってもらえます？ まあ、受験のためにどんどん知識ばかりを、こう、いれていくんですね……

### e 話し手のみ気づき、修正を試みたが、失敗した場合

これは日本人学生が話し手となっている際、自分自身で修正をこころみだが、失敗したケースである。具体的にはbのケースと同様であるが、bと異なる点は、聞き手はブレイクダウンに気付いていないために、(あるいは修正を促すための方法を知らないため)聞き返し

をできない点にある。次の例は、日本人が「偏差値」という言葉についてわかりやすく説明したつもりが、留学生にとっては不十分だったケースである。

②4 J：他の国では、偏差値とか、そういうものは、ありましたか？（沈黙）

J：内容をいえば、とりあえず、テストの成績によって入れる学校が違うということですけど。（沈黙）

#### f 話し手のみ気付いたが、修正を試みなかった場合

これは日本人学生が自分自身が原因でブレイクダウンがおこっていることに気付いてはいるが、修正を試みようとしなかったケースである。これはaのケースのように容易に直せるものでない場合が多い。例えば、討論の最中、留学生は非常に積極的に参加していたのと対照的に、特に最初に意見をのべる際、日本人学生の場合、非常に消極的である場合が多かった。この多くの場合、その日本人自身は気付いてはいるが、身に付いてしまった習慣を簡単にかえることができず、ブレイクダウンに気付きながら修正を試みない。

②5 J：何か、いいたいことのある人は、言って下さい。（沈黙） J：だれでもいいので、思いを……（沈黙）

#### g 聞き手のみ気づき、修正を試み、成功した場合

これは、話し手（日本人学生または留学生）はブレイクダウンに気付かず、聞き手（日本人学生）のみが気づき、修正を試みて成功したケースである。他に、聞き手が話し手に質問する形で修正を促し、成功した場合などがあげられる（③0）。具体的には、留学生のいいたいことを言い直したり（②6）、まとめ直したり、繰り返したりするケース（②7, ②9）がみられた。また、②8のケースにみられるように留学生のいいたい答えを先取りして答えているケースもみられた。③1の場合は、聞き手であったJ2が、FがJ1の「～かなあとって」という表現が質問であることに気付かないでいることに気づき、J1の質問を修正し、もう一度わかりやすく言い直しているケースである。

聞き手が話し手に質問する場合は「もっと具体的にいってもらえませんか」「もっと簡潔にいただけませんか」など、かなり具体的な質問の仕方をしているケースがみられた。

②6 F：ちょっと聞きたいことあるんですけど、えーっとね、最近TVとは、ニュースとか、女性の大学卒業は仕事入りにくいでしょ？ で、日本のかたは、どう思いますか？

J：今、日本では、女性が就職困難で、それについてどう思いますかっていう質問をしたいんですけど。

②7 F：一部の人は、しゃべれないと思います。 J：しゃべれない。

③0 J1：中国では、第二外国語はありますか？ F：え……第二外国語は…… J1：英語だけ？

③0 F：タバコのCMは、今までは、禁止しています。国内産業に対しては、今までは、米とか日本とか外国のCMしかやったことはありません。お酒の方は……やります。 J：……ということは、中国のタバコ産業はCMをしていない。アメリカの産業のCMはする。

③0 F：あなたは、先生が、先生の責任をどのくらい持っていると感じますか？ J：どういうふうに答えたらいいいんですか？ どのくらいって数字で答えたらいいいんですか？



③① J 1：日本では、英語はできるけど、しゃべれない先生が結構いると思うんですよ。他の国では、どうなっているのかなあ、と思って…… F：日本で、英語を発音する時は、子音と母音を発音するでしょ。話すとき、外国人はわからなくなっちゃうと思います。 J 2：今、質問があったように、他の国では先生がちゃんとしゃべれるのかなあ、という疑問をもったみたいなんですけれども、だれか、それについて答えをだしてあげてください。

h 聞き手のみが気づき、修正を試みたが、失敗した場合<sup>(註1)</sup>

この場合は、gで修正が試みられたが、失敗したケースである。失敗の原因は、留学生が、日本人学生の「修正を促すための質問」の語彙を理解できなかったことなどがあげられる。

③②のケースは、日本人の問いに対する留学生の答えが、日本人の期待に反して短かったため、日本人がもう一度質問をし、修正を促そうと試みたのであるが、留学生の方はその意図がくみとれなかったケースである。これは、留学生の語彙が少ないため、説明が十分でなかったことも原因と考えられる。

③③ J：それじゃまず、台湾のコマーシャルについて。 F：台湾では、コマーシャルすることはあります。(沈黙) J：あるんですか？ タバコとかお酒とかだしてきて…… F：はい。(沈黙)

i 聞き手のみが気付いたが、修正を試みなかった場合

これは、聞き手(日本人学生)のみがブレイクダウンに気が付いているが、修正を試みようとしなかったケースである。

このケースは前にのべたように留学生の日本語の文法力や語彙力、発音の問題に気づきながら直さなかった場合も含まれる。一方、留学生の表現の不自然さ(丁寧体を使わなかったり、質問に対する答えが不十分など)に「笑う」という形で対応しているケースが多くみられた。この場合も、iのケースに含まれるといえる。

また、談話レベルのブレイクダウンでは、留学生の場合、話の流れがわからず、突然別の話題を話し出すというケースや、会話へのわりこみなどもみられた。しかし、日本人学生のこれに対する反応は、笑ったり、相手のペースに合わせていた場合が多かった。相手の発言をストップしたり、もとの流れにもどすということ为避免、修正を試みなかった場合が多い。

③④ F：君は、6年間勉強したというけど、どれくらい点数はとれるの？ 今、しゃべれないということだけど、努力次第だよ。そういうことだよ。(笑い)

③⑤ F：韓国の制度は、日本と同じです。幼稚園から大学院まで。(笑い)

j 双方が気付かず、修正も行われなかった場合

これは、「無意識な」レベルでのブレイクダウンである。これは特に日本人が話し手の場合、表現の曖昧性など、「無意識」なレベルで身につけている部分がブレイクダウンとなっている場合が多い。次のケースは、日本人の「……ですけれども……」という表現を、留学生側は質問の意味でとらえず、「逆接」の意味でとらえたため、ブレイクダウンがおきたと考えられるが、双方がブレイクダウンに気づかなかった場合である。これは、日本人は「正しい」日本語を話しているつもりであるが、聞き手の留学生にとっては理解できないにもかかわらず、「なぜ理解できないのか」「どこを直せば、よいか」がわからないケースである。

このケースは、「どの様に修正すればよいか」という修正のストラテジーを身につける以前の問題であるといつて良いであろう。この種のブレイクダウンは、日本人学生が母語としての日本語を身につけていく中で無意識に習得してきた部分である。自分自身の話している母語を客観的にみつけ、ブレイクダウンに気付くことは大切であろう。また、日本人側が、話すことに夢中になり、自分自身の使っている語彙が難しいことに気づかなかつたりした場合も含まれる。

③⑤ J:あと、とにかく、日本人の特徴は? と皆で考えて言ってほしいな、と思ったんですけども……(沈黙)

③⑥:このことについて、皆さんの国で、どうだったんでしょうか、というか、こんな感じだった、というのをできればききたいんですけども。(沈黙)

#### Ⅳ よりよいコミュニケーションとは一まとめにかえて一

以上、本稿では、日本人学生と留学生がそれぞれ、コミュニケーション・ブレイクダウンに直面した際、どの様に対処してきたかについて事例を検討した。

留学生の場合は、「修正を促すためのストラテジー」すなわち「戸惑いの表現」や、相手に対して適切な表現で聞き返したり、質問するなどの、いわゆる「修正を助けてもらう表現」が不足しているために修正が行えないケースがみられる。実際に「ブレイクダウン」に気付いていても、その修正を促すための表現力に乏しいため、修正がおこなわれなかったケースが多いのである<sup>(註2)</sup>。留学生にとって、よりよいコミュニケーションのために、「修正を促すためのストラテジー」を身につけていくことは重要な課題である。

これに対して、日本人学生の場合は、比較的容易に直しやすい留学生の語彙力の不足などは積極的に修正をおこなうが、わりこみなどの談話レベルでのブレイクダウンの修正に対しては消極的である場合がよくみられた。すなわち談話レベルの「修正」のために自らが会話の流れを変えたり、遮ったりすることに抵抗を感じるためのようである。また、自分自身の話す「日本語」に関して、曖昧性など、無意識に習得している部分でブレイクダウンがおこっている場合、それに気付かないケースもみられた。日本人にとっては、「無意識に」習得してきた母国語を客観的に見る眼を養うことは大切である。

よりよいコミュニケーションとは何だろうか。本稿では、留学生と日本人学生がそれぞれブレイクダウンにどのように対処してきたかについて検討してきた。ブレイクダウンに直面したときに大切なのは、まず、どこに問題があるかということに気付くことである。そして、修正が必要な場合、修正を試みる意思をもつことが大切である。さらに修正をするためにどこを直せばよいか、ということとどのように直せばよいか、という方法について知ることは大切である。本稿が、留学生と日本人とのコミュニケーション・ブレイクダウンの解決に少しでも役立つことができれば幸いである。

#### 注

(1) 次のケースはディスカッションが険悪なムードになった際、日本人学生が「衝突」を回避する

ことによって修正を試みたケースである。これは、聞き手が修正を試みたケースといえるが、「成功」「失敗」いずれかに分類することは困難なケースといえよう。

F：今の話題については、しゃべらない方が、いいですね。(沈黙)

J：日本の皆さんも、そういった意見を無駄にしないで、前提において……

- (2) ニュースブトニーは、「外国人の場合に、最も問題になるのは、コミュニケーション問題に直面する時、例えば適当な単語をもっていない時とか間違えて誤解されそうな場合の処理である。母国語だと話し手は上手に『操作のルール』を適用できるが、外国人だと、必要な表現『何だったか』『別のことばでいうと……』など、欠けているせいもあり、ただだまりこんで訂正できないことが多い」とのべている。

## 参 考 文 献

- ニュースブトニー 1982 『外国人とのコミュニケーション』岩波新書  
 仁科喜久子・笹川洋子・土井みつる・五味政信・楠本はるみ 1994, 「理工系留学生のセミナーでの対話理解過程の分析—理工系学生のシラバス作成に向けて—」『日本語教育』84号  
 尾崎明人 1992 「『聞き返し』のストラテジーと日本語教育」『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会  
 ポリー・ザトラウスキー 1993 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版  
 泉子・K・メイナード 1993 『会話分析』くろしお出版  
 『日本語百科大事典』1995 大修館書店

(1995年8月25日 受理)